

今週（6月13日から6月17日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、15日に積み最終日を控え、週前半は調達ニーズが旺盛であった。16日以降は新しい積み期間に入ったことや、年金定時払いや金融政策決定会合などの要因により、調達を見送る先が多く見られた。無担保コール市場残高は、15日までは5兆円台で推移していたものの、16日には4兆558億円まで残高が減少した。週間の無担保コールO/N加重平均レートは概ね▲0.05%台で推移した。新しい積み期間に入ってから調達は慎重姿勢を示していることもあって、若干低下傾向となった。日銀当座預金残高は、290兆円前後での推移となった。ターム物は、1W～1M物で証券業態からの調達が散見された。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは、16日に2W物が8,000億円オファーされ、応札額4,231億円（期落ち額3,350億円）の札割れとなった。

15～16日に開催された日銀金融政策決定会合では、金融政策の現状維持が決定された。

●レポ市場

今週のO/N GCは、週初▲0.10%近辺での取引で始まり、週後半にかけては国債の大量発行要因からレートを切り上げる展開となり、▲0.05%前後まで上昇した。

週初13日のS/Nは積み期間の最終日にあたったものの、レート水準に動意は無く▲0.10～▲0.09%程度の出合い。翌14日のS/Nは新しい積み期間に入り、投資家のオファーが減少したことで▲0.105～▲0.10%程度の出合いとレートはやや低下した。翌15日のS/Nには業者の玉確保のビッドが多く入ったことから、▲0.12～▲0.10%程度までレートを切り下げる動きとなった。16日のS/Nは国債の大量発行の要因から大きくレートを切り上げ、▲0.08～▲0.05%程度の出合いとなった。週末17日のGC S/Nは短国買入オペがオファーされたことでオファーサイド資金調達ニーズがやや減退し、▲0.06%前後の出合いと、水準をやや下げる展開となった。

SCはタイトなレートで取引される銘柄は10Y、30Y、40Yのカレント周りに集中してみられるが、一方で6月20日に新規発行となった銘柄にはビッドは殆ど見られなかった。ビッドが目立った個別銘柄では5y 125～127、10y 336～342、30y 45、48～50、40y 8などにビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、特段材料が無い中、FOMC、金融政策決定会合を控えて様子見のマーケットとなった。

短国の入札は14日に1Y物、15日に3M物が実施された。1Y物は、平均落札利回▲0.3656%、按分落札利回▲0.3587%と、短国買入オペを睨んだ応札からか、過去最低を更新する強い決着となった。3M物は、買手が限定される中、既発債が小甘く推移していることもあってレート上昇も期待されたが、平均落札利回▲0.2636%、按分落札利回▲0.2517%と引き続き堅調な結果となった。入札自体は順調な結果であったものの、セカンダリー市場では買手不在の閑散なマーケットとなった。17日に17,500億円で実施された短国買入オペは、平均落札利回り較差+0.029%、按分落札利回り較差+0.027%と、流動性の低いマーケットを反映した小甘い結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、入札ベースの週間償還総額6,000億円程度に対し、幅広い業種（電機・鉄鋼・石油・不動産・ノンバンク等）から大型の発行案件が見られ、週間発行総額は9,000億円程度と、大幅に膨らんだ。6月末決算を意識した調達期間の短い発行が散見されたものの、引き続き長い期間での調達需要も強く、堅調な取引となった。発行レートは引き続き0%近辺での発行が大多数で、一部の銘柄ではマイナスでの発行が見られるなど、全体的に低水準で推移した。発行残高が積み上がった銘柄や、月内償還物では小幅ながら上昇する局面も見られた。

15日にはCP等買入オペがオファー額4,500億円で実施された。買入対象となる銘柄が比較的多かったことや、月内償還物を処分する動きが強めに働いたためか、入札結果は平均落札レート・按分落札レート共に▲0.001%と、前回比（按分▲0.004%・平均▲0.001%）で足切レートが上昇する結果となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
6/13 (月)	16,019.18	△ 0.165	106.18	△ 0.050	△ 0.090	2,852,400
6/14 (火)	15,859.00	△ 0.170	106.00	△ 0.050	△ 0.087	2,885,600
6/15 (水)	15,919.58	△ 0.195	106.10	△ 0.053	△ 0.097	2,938,000
6/16 (木)	15,434.14	△ 0.205	104.70	△ 0.057	△ 0.096	2,938,200
6/17 (金)	15,599.66	△ 0.155	104.70	△ 0.057	△ 0.057	2,949,100

来週（6月20日から6月24日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
6/20 (月)	慶應義塾大学にて黒田総裁講演 5月の貿易統計(財務省 8:50)				
6/21 (火)	金融政策決定会合議事要旨(4月27・28日分 8:50)	流動性供給 5,000億円 6/23発行			
6/22 (水)					5月の米中古住宅販売
6/23 (木)	石川県金融経済懇談会にて木内審議委員講演 4月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)	TB3M 44,000億円 6/27発行	20Y 11,000億円 6/27発行		5月の米新築一戸建て販売件数
6/24 (金)	全国信用金庫大会にて中曾副総裁講演 決定会合における主な意見(6月15・16日分 8:50) 5月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)				5月の米耐久財新規受注

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
6/20 (月)	▲ 200	44,500	44,300	全店共通 CP買入 社債買入 国債補完 貸出増加支援	▲ 3,400 ▲ 400 ▲ 1,300 400 ▲ 57,900	4,200 4,500 68,700	14,800	59,100	TB3M発行▲44000償還44600 TB1Y発行▲25000償還5400 5Y発行▲24000償還51100 10Y発行▲24000償還64800 30Y発行▲8000 変動15Y▲4400 エネルギー対策借入▲6000期日5000 機関貸付回収
6/21 (火)	▲ 1,000	▲ 4,000	▲ 5,000	短国買入		17,500	17,500	12,500	流動性供給▲4000
6/22 (水)	▲ 1,000	▲ 1,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	
6/23 (木)	▲ 2,000	▲ 4,000	▲ 6,000				0	▲ 6,000	流動性供給▲5000
6/24 (金)	▲ 2,000	0	▲ 2,000	社債買入 被災地支援		1,300 ▲ 500	800	▲ 1,200	交付税借入▲10500期日10500
週間合計	▲ 6,200	35,500	29,300	—	▲ 63,100	96,200	33,100	62,400	

6/20は日銀予想、6/21以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、20日に国債の大量償還・利払いがあり、大幅な余剰日となることが見込まれる。当座預金残高が積み上がっているため、調達側が慎重姿勢を示していることから、無担保コールO/N加重平均レートは若干低下することが見込まれる。

短国市場は23日に3M物の入札が予定されており、堅調な結果が引き続き見込まれる。

CP市場は、22日・23日の入札を中心に発行の増加が見込まれる。6月末には20,000億円を超える償還が控えており、全体の発行額がどれだけ積み上がるか注目される。発行レートは、月中物を除き、引き続き低水準で推移すると考えられる。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。